

日光・雲竜溪谷

(報告) ミツ

◎日程：2019年2月8日(金)

◎メンバー：アキ(L)、イノ、サチ、ミツ

「日光に雲竜溪谷と云う氷瀑の凄いところがあるけど、1月下旬から2月中旬までが見頃なんだ」とアキさんがふとつぶやいた一言に、即反応し期間限定ともなれば直ぐにでもと半ばゴリ押し状態で2月8日案内していただくことに相成りました。

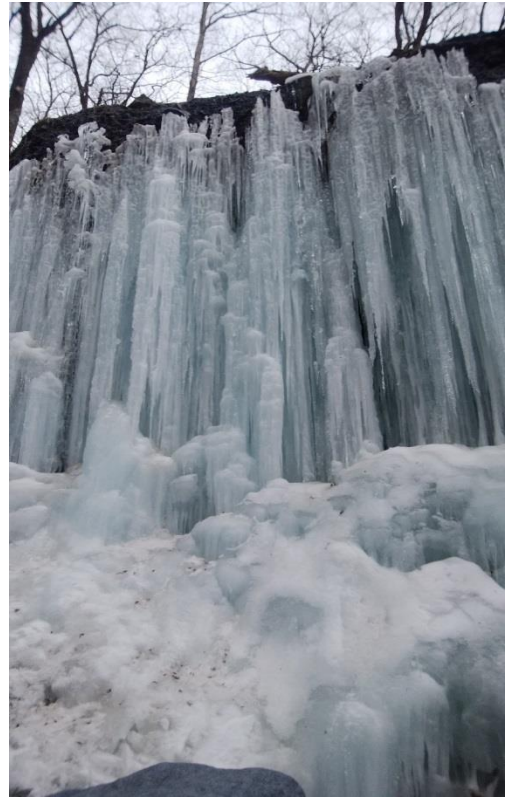
200m程の溪谷に氷壁、氷柱、氷瀑などが連なる為、10本以上のアイゼン、ヘルメット必須との事。丁度我々が行く一週間ほど前には朝日新聞の一面に「日光・冬だけの神殿」と写真が紹介されたり、3日前ごろから季節外れの暖かい日が続いたりし、混雑と氷柱の融け具合が気になりながら当日保谷駅7:00車で出発。少々の渋滞がありながらも予定時間内に林道ゲートまで車が入ることが出来、本来の駐車スペース滝尾神社からゲートまでの林道歩き約1時間が短縮出来る事になりました。

林道ゲートからは工事用道路と沢コースが有るそうですが、安全な林道コースを走ります。舗装された広い林道は本来ならこの時期アイスバーン状態だそうですが、やはり暖かい日が続き殆どがアスファルトがむき出し、大きくカーブした所など凍結した箇所は多少ありましたがノンアイゼンで歩けます。

途中展望台から女峰山を眺め、洞門岩からも溪谷コースを避けひたすら林道を歩くこと2時間、やっと溪谷入口到着です。

いよいよアイゼン、ヘルメットを装着し雪に覆われた急階段を慎重に降りると別世界の始まりです。雪交じりのゴロゴロ岩を行くと早くも右手に岩を覆うように真っ白な氷のカーテンが現れそのカーテンが溪谷の奥へと続き迫力満点。飛び石伝いに何度も沢を渡り返し、渡渉の苦手な私はその度に全身緊張がはしりながらも、兩岸から次々と現れるシャーベットブルーの氷柱群に興奮と感動に気分は最高!

嫌々と思うほどの長い林道歩



きもこの景観ですべて帳消しになります。氷柱が崩れ落ち折り重なっている所もあります。やはりヘルメットは必須です。溪谷の核心部、氷で覆われた雲竜瀑を見上げつつ、本日は滝壺まで攻めるのは無しとし名残り惜しくも溪谷とのフィナーレとなりました。

リーダーは雲竜溪谷4回目にして今回が一番小規模だったそうですが、自然が創り出す素晴らしい氷の迫力、美しさに感動の一日でした。



(了)